

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名	
佐藤 和宏 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：なぜあなたは「愛してくれない人」を好きになるのか</p> <p>著 者：二村ヒトシ</p> <p>出版社：イースト・プレス ISBN：9784781671086</p>	<p>「私、あなたのこと好きになることに決めましたから」「…はあ？」</p> <p>日頃、研究室でもひとり、家でもひとりで、勉強しかしていない。しかし、たまに巻き込まれ事故(?)に遭う。私は、お互い知り合いでない2人以上から薦められた本はブックマークすることになっている。本書は、たまたま2人から連続で薦められたので読んだ(Mさん、Aさんに感謝)。いわく、本書の問いに対する回答は、①心の穴を埋めるため、なのだが、②存在しない理想の男性を基準として、存在する理想でない男性を評価するので、かくしてずっと幸せになれない、というもの。たまりすぎているブックマークを処理している時、たまたまアインシュタインによるとされる言葉に出会った。「狂気とは、同じ行動を繰り返しながら違う結果を望むことである」。狂気とは、呪いである。</p>
<p>② 図書名：「断熱」が日本を救う 健康、経済、省エネの切り札</p> <p>著 者：高橋真樹</p> <p>出版社：集英社 ISBN：9784087212976</p>	<p>自分の頭の悪さや、研究能力の低さに、日々落ち込みながら、生きている。一応勉強はしているつもりで(一応ね)、研究関連で読んでおもしろかったのがこの本。知り合いの古賀勇人さん(この人の論文はおもしろいので、興味があればぜひ読んでください)がエネルギー貧困を研究していると聞いて、自分も勉強し始めた。本書は、日本の断熱をめぐる状況がよく分かる。</p> <p>質の低い住宅を放置すれば、そのことによって不必要に不健康になり、それによって医療・介護費用がかさむ。太陽光発電をすればよいのにそれをしないから石油を大量に輸入し、それに何兆円もかける。省エネを推進する上でも大事なのにそれを他の政策と組み合わせない。なぜそうなるのかを明らかにできない限り、死ぬわけにはいかない。死ぬまで、勉強し続けたい。</p>
<p>③ 図書名：東京電力の変節 最高裁・司法エリートとの癒着と原発被災者攻撃</p> <p>著 者：後藤秀典</p> <p>出版社：旬報社 ISBN：9784845118427</p>	<p>どんなに積読も、ブックマークも、たまりすぎても(おせちもいいけどカレーもね、みたいな)、雑誌『世界』・『地平』は読むようにしている。自分が、どういう人間として生きていくかを、研究や教育と切り離さないために。</p> <p>雑誌『世界』の連載を見て、これは読まなければ、と。いわく、原発事故被害者は、テレビとお友達の優雅な生活を過ごしている(から、賠償するに足りない)、と。福島第一原発の廃炉費用をみえにくい形で国民負担にし、東電の費用負担を大幅に軽減した、と。想定を超える規模の津波が来たので、事故の発生を防ぐことができなかった可能性が高い、だから国に責任はない、と。</p> <p>本書を読んで、感想はたった一言、「…はあ？」／『原発と司法』(図書館にあります。私が買って寄付したから。)と併せて読まれんことを。</p>